

(様式第9)

関枚発第07X02号
平成19年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 大阪府守口市文園町
学校法人 関西医
理事長 塚原

関西医科大学附属枚方病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	43人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数(平成19年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	252人	73人	268.7人	看護業務補助	20人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	9人	臨床検査技師	58人
薬剤師	47人	0人	47.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	35人	0人	35.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	695人	20人	708.8人	臨床工学技士	8人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	4人	0人	4.0人	栄養士	0人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯科技工士	0人	事務職員	56人
管理栄養士	5人	0人	5.0人	診療放射線技師	32人	その他の職員	1人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	597.5人	0人	597.5人
1日当たり平均外来患者数	1,615.0人	0人	1,615.0人
1日当たり平均調剤数		1.7剤	

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

(平成18年度)

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・スキンファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・マス・スペクトロメリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	11人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膀胱腫瘍に対する腹腔鏡補助下膀胱切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
人工中耳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光監察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
眼底三次元画像解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
CYP2C19遺伝子多発検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT検査診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療（平成18年度）

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	70人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	7人
・多発性硬化症	6人	・ウェゲナー肉芽腫症	78人
・重症筋無力症	21人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	20人
・全身性エリテマトーデス	265人	・多系統萎縮症	1人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	47人	・膿疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	128人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	9人	・原発性胆汁性肝硬変	157人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	61人	・重症急性膵炎	7人
・特発性血小板減少性紫斑病	158人	・特発性大腿骨頭壊死症	48人
・結節性動脈周囲炎	126人	・混合性結合組織病	26人
・潰瘍性大腸炎	156人	・原発性免疫不全症候群	10人
・大動脈炎症候群	20人	・特発性間質性肺炎	14人
・ビュルガー病	30人	・網膜色素変性症	96人
・天疱瘡	0人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	8人	・原発性肺高血圧症	4人
・クローン病	66人	・神経線維腫症	32人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	21人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	37人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	5人
・アミロイドーシス	35人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	80人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要（平成18年度）

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	271 回	
剖検の状況	剖検症例数 32 例	剖検率 8.0 %

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
超音波組織ドプラによる運動療法、各種薬物療法での大動脈コンプライアンス変化の比較	木村 穰	循環器腎内分泌内科	600,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
自己免疫性膵炎患者および慢性モデルマウスにおける標的抗原に関する免疫学的研究	岡崎 和一	消化器内科	1,600,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
胃癌におけるMAPKを介するTGF- β シグナル伝達機構の解析と治療への応用	森 茂生	消化器内科	2,300,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
強迫性障害患者の脳機能画像研究 -前頭葉白質線維回路網に注目して-	延原 健二	精神神経科	700,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
幽門保存胃切除後の胃運動能に関する研究 -幽門輪からの切離距離による検討-	中根 恭司	外科	500,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
Dynamic graciloplasty による肛門機能の改善に関する研究	吉岡 和彦	外科	500,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
pirfenidoneによる障害肝保護作用の解析	海堀 昌樹	外科	1,100,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
スタチンによる障害肝のiNOSシグナル伝達系の制御に関する研究	松井 陽一	外科	1,800,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
小腸移植における一酸化窒素のグラフト保護因子としての役割の解明	濱田 吉則	外科	1,600,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
早期乳癌の遺伝子診断と局所療法の試み	山本 大悟	外科	1,800,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
神経板の発達における遺伝子発現に関する検討 -特に外胚葉・中胚葉との関連について-	稲垣 隆介	脳神経外科	2,000,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
音響解析を用いた呼吸リハビリテーションの客観的評価について	菅 俊光	整形外科	400,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
骨髄移植による特異的免疫寛容を作成して熱傷に対する同種移植による救命実験	小川 豊	形成外科	2,000,000	補 文部科学省 科学研究費補助金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
アデノウイルスベクターを用いた骨形成タンパクの遺伝子導入による骨誘導の実験研究	楠本 健司	形成外科	1,000,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
老人性難病関連遺伝子の解明と蝸牛局所療法の開発	山下 敏夫	耳鼻咽喉科	2,300,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
蝸牛求心性聴覚情報伝達機構における一酸化窒素の作用及び細胞内Ca ²⁺ 動態への影響	永田 基樹	耳鼻咽喉科	1,300,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
DNAマイクロアレイを用いたステロイドホルモン応答遺伝子の内耳における発現解析	八木 正夫	耳鼻咽喉科	1,500,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
非生物由来の新しい一時的塞栓物質の開発	谷川 昇	放射線科	2,000,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
外科的透析内シャント作成術に代わる新しい経皮的シャント作成術の開発	狩谷 秀治	放射線科	1,300,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
ヒト子宮内膜における前駆体蛋白活性化酵素PC6の調節機構とその役割に関する研究	岡田 英孝	産婦人科	2,200,000	補 文部科学省 科学研究費補助金
脳内ドパミン系に対する作用を指標にしたキセノンの脳保護作用に関する研究	増澤 宗洋	麻酔科	1,100,000	補 文部科学省 科学研究費補助金

計21件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Hematology 83:55-62,2006	A phase II study of VEPA/FEPP chemotherapy for aggressive lymphoma in elderly patients.	Shiro Fukuhara	血液呼吸器膠原病内科
Pharmacology 536:19-27,2006	Involvement of Rho signaling in PAR2-mediated regulation of neutrophil adhesion to lung epithelial cells.	Yasuhiro Yagi	血液呼吸器膠原病内科
血液フロンティア (1344-6940)16巻5号 Page685-690(2006.04)	私のこの一枚 14q32転座型腫瘍(14q+marker-positive cancer)の疾患概念	福原 資郎	血液呼吸器膠原病内科
Medical Practice(0910-1551)23巻9号 Page1533-1537(2006.09)	【生活習慣病の実地診療 最新の病期・病態別診療指針】生活習慣病の病期・病態別診療指針と薬の選択法 虚血性心疾患 一次予防、二次予防からの観点	岩坂 壽二	循環器腎内分泌代謝内科
心臓リハビリテーション11巻1号 Page11-13(2006.02)	“CCUから心リハ”胸痛センターから健康科学センター”その試みは正しいか?	岩坂 壽二	循環器腎内分泌代謝内科
Heart View(1342-6591)10巻5号 Page544-547(2006.05)	【プライマリー不整脈疾患 その病態理解から治療へ】診る健診とBrugada症候群	岩坂 壽二	循環器腎内分泌代謝内科
メタボリックシンドローム(1349-7286)2巻1号 Page13-20(2006.05)	レニン・アンジオテンシン系の脳特異的過剰発現により高血圧が惹起される	森本 聡	循環器腎内分泌代謝内科
日本臨床生理学会雑誌(0286-7052)36巻4号 Page167-170(2006.08)	頭側延髄腹外側野への動脈による圧迫と高血圧の関連	森本 聡	循環器腎内分泌代謝内科
日本臨床(0047-1852)別冊内分泌症候群 Page504-507(2006.05)	【内分泌症候群 その他の内分泌疾患を含めて】甲状腺 Low T3症候群,Low T4症候群(euthyroid sick syndrome)	豊田 長興	循環器腎内分泌代謝内科
Cardiovasc Res. 2006 May 1;70(2):354-63.	Dystrophin is a possible end-target of ischemic preconditioning against cardiomyocyte oncosis during the early phase of reperfusion.	Kyoi S	循環器腎内分泌代謝内科
Antioxid Redox Signal. 2006 Jul-Aug;8(7-8):1351-61.	Role of oxidative/nitrosative stress in the tolerance to ischemia/reperfusion injury in cardiomyopathic hamster heart.	Kyoi S	循環器腎内分泌代謝内科
Cardiovasc Res. 2006 Mar 1;69(4):888-98.	Opposing effect of p38 MAP kinase and JNK inhibitors on the development of heart failure in the cardiomyopathic hamster.	Kyoi S	循環器腎内分泌代謝内科
J Nephrol. 2006 Jul-Aug;19(4):481-91.	Influence of diabetes mellitus on diagnostic potential of iodine-123-BMIPP imaging for coronary artery stenosis in hemodialysis patients.	Nishimura M	循環器腎内分泌代謝内科
Circ J. 2006 Mar;70(3):243-7.	Effects of intravenous administration of tissue plasminogen activator before thrombectomy in patients with acute myocardial infarction.	S Yamamoko	循環器腎内分泌代謝内科
臨床スポーツ医学 (0289-3339)23巻12号 Page1479-1488(2006.12)	【高血圧に対する運動療法の実際】各論 高血圧の運動療法の実際	木村 穰	循環器腎内分泌代謝内科
心臓(0586-4488)38巻Suppl.2 Page24-27(2006.05)	慢性心不全例におけるNOとブラディキニンの関係	楊 培慧	循環器腎内分泌代謝内科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
心エコー(1345-4951)7巻5号 Page346-352(2006.05)	Fundamental Lesson Ebstein病はどのように診断して何に注意すればよいか	拝殿 未央	循環器腎内分泌代謝内科
Sportsmedicine(0916-359X)18巻7号 Page6-12(2006.08)	【専門職能を活かす地域事業とネットワーク】医療機関とフィットネス施設を結ぶネットワーク メディカルパーソナルトレーナー(MPT)制度について	木村 穰	循環器腎内分泌代謝内科
保健の科学(0018-3342)48巻8号 Page565-569(2006.08)	【アダプテッド・スポーツ その人に合ったスポーツ】肥満運動療法と心理的サポート	木村 穰	循環器腎内分泌代謝内科
Internal Medicine(0918-2918)45巻9号 Page571-572(2006.09)	Is Outcome of Autoimmune Pancreatitis Similar to Conventional Types of Chronic Pancreatitis?	Okazaki Kazuichi	消化器肝臓内科
膵臓(0913-0071)21巻5号 Page395-397(2006.10)	自己免疫性膵炎臨床診断基準2006	岡崎 和一	消化器肝臓内科
日本検査血液学会雑誌(1347-2836)7巻1号 Page1-9(2006.02)	Helicobacter pyloriと胃MALTリンパ腫	岡崎 和一	消化器肝臓内科
日本消化器病学会雑誌(0446-6586)103巻8号 Page911-917(2006.08)	【膵炎の発症と修復機構】膵炎と遺伝子異常	岡崎 和一	消化器肝臓内科
消化器と免疫42号 Page94-97(2006.04)	潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセット・サイトカインプロファイルの解析	松下 光伸	消化器肝臓内科
J Gastroenterol. 2006 Jul;41(7):626-31.	Clinical diagnostic criteria of autoimmune pancreatitis: revised proposal.	Okazaki K	消化器肝臓内科
Japan Medical Association Journal(1346-8650)49巻3号 Page93(2006.03)	Is Percutaneous Endoscopic Gastrostomy Really a Safe Procedure for High Aged Patients?	Okazaki Kazuichi	消化器肝臓内科
膵臓(0913-0071)21巻5号 Page446-452(2006.10)	ステロイド内服で軽快しなかった自己免疫性膵炎に伴う胆管狭窄に対してステロイド・ミニパルス療法が有効であった一例	松下 光伸	消化器肝臓内科
Neuropsychobiology. 2006;54(2):134-9.	Increased omega complexity and decreased microstate duration in nonmedicated schizophrenic patients.	Irisawa S	精神神経科
Neuropsychobiology. 2006;53(4):186-95.	Effects of the serotonin type 2A, 3A and 3B receptor and the serotonin transporter genes on paroxetine and fluvoxamine efficacy and adverse drug reactions in depressed Japanese patients.	Kato M	精神神経科
J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2006 Jan;77(1):120-2.	Frontal white matter anisotropy and symptom severity of late-life depression: a magnetic resonance diffusion tensor imaging study.	Nobuhara K	精神神経科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2006 Dec 30;30(8):1408-12	Neural disorganization in the superior cerebellar peduncle and cognitive abnormality in patients with schizophrenia: A diffusion tensor imaging study.	Okugawa G	精神神経科
精神分析研究(0582-4443)50巻2号 Page165-166(2006.04)	支配することと支配されることの葛藤	北代 麻美	精神神経科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
心理学研究,2006 Jun;77(2):149-56.	表現と認知の相違から検討した感情音声の特徴	伊藤 朋子	精神神経科
小児科臨床(0021-518X)59巻10号 Page91- np7(2006.10)	経口補水療法の最近の考え方	金子 一成	小児科
小児内科(0385-6305)38巻6号 Page995-999(2006.06)	【輸液療法 新しい知見】小児への維持輸液製剤のNa濃度は35mEq/Lより濃くすべきである 賛成	金子 一成	小児科
小児内科(0385-6305)38巻増刊 Page116-117(2006.11)	【小児疾患の診断治療基準】水・電解質・酸塩基平衡 血清電解質異常(K異常症)	金子 一成	小児科
Progress in Medicine(0287-3648)26 巻7号 Page1563-1567(2006.07)	【川崎病 第30回近畿川崎病研究会】川崎病の冠動脈病変評価におけるマルチスライスCTの有用性 超巨大冠動脈瘤を合併した小児例における検討	寺口 正之	小児科
公衆衛生(0368-5187)70巻11号 Page882-886(2006.11)	感染症実地疫学 宮崎県での麻疹アウトブレイク調査	森 伸生	小児科
日本小児臨床薬理学会雑誌(1342-6753)19巻1号 Page87-90(2006.12)	臨床必修研修の現場に必要な小児医薬品の基礎知識 有効で安全な薬の使い方から相互作用・副作用まで 向精神薬の特徴と使用上の留意点	石崎 優子	小児科
保健の科学(0018-3342)48巻12号 Page897-900(2006.12)	【「親子関係からみた子ども環境」学】子どもの心の問題と母子関係	石崎 優子	小児科
臨床研修プラクティス(1349-0524)4巻1号 Page108-110(2006.12)	知っておくと必ず役立つアラカルト 児童虐待を疑ったら?	石崎 優子	小児科
Progress in Medicine(0287-3648)26巻1号 Page295-299(2006.01)	大量羊水吸引症候群に合併した新生児遷延性肺高血圧症に対するフローランの使用経験	池本 裕実子	小児科
小児内科(0385-6305)38巻4号 Page704-709(2006.04)	【小児科の魅力 子どもの総合診療】「小児の診療」の基本とその教育	木下 洋	小児科
小児科(0037-4121)47巻9号 Page1291-1292(2006.08)	目で見える小児科 好酸球性肉芽腫症における3次元CTの有用性	野田 幸弘	小児科
Dig Dis Sci. 2006 Nov;51(11):2013-7.	Recurrent hepatitis C after living donor liver transplantation detected by Tc-99m GSA liver scintigraphy	Kaibori M	外科
Surgery. 2006 Mar;139(3):385-94.	Comparison of limited and anatomic hepatic resection for hepatocellular carcinoma with hepatitis C.	Kaibori M	外科
Anticancer Res. 2006 Sep- Oct;26(5B):3685-92.	Influence of transcatheter arterial chemoembolization on the prognosis after hepatectomy for hepatocellular carcinoma in patients with severe liver dysfunction.	Kaibori M	外科
J Surg Res. 2006 Jan;130(1):88-93.	Hepatocyte growth factor stimulates the induction of cytokine-induced neutrophil chemoattractant through the activation of NF-kappaB in rat hepatocytes.	Kaibori M	外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surg Today. 2006;36(6):570-3.	Posterior esophagopexy with dome formation to prevent reflux in interposed jejunal pouch reconstruction after total gastrectomy.	Michiura T	外科
World J Surg. 2006 Jul;30(7):1277-83.	Assessment of the preserved function of the remnant stomach in pylorus-preserving gastrectomy by gastric emptying scintigraphy.	Michiura T	外科
Pancreas. 2006 Jul;33(1):45-52.	Less morbidity after pancreaticoduodenectomy of patients with pancreatic cancer.	Satoi S	外科
Breast. 2006 Apr;15(2):203-9.	A four node axillary sampling trial on breast cancer patients.	Tanaka K	外科
癌と化学療法(0385-0684)33巻7号 Page901-903(2006.07)	【大腸癌化学療法 最近の併用投与】CPT-11(24時間持続)+UFT/LV	岩本 慈能	外科
医学のあゆみ(0039-2359)別冊:消化器疾患 Ver.3 Page577-580(2006.04)	【消化器疾患 state of arts 消化管(食道・胃・腸)】主要疾患 現況・病態・診断・治療 胃癌 胃切除後の貯留能再建	中根 恭司	外科
消化器外科(0387-2645)29巻10号 Page1441-1448(2006.09)	【熟知すべき最近の画像診断:消化器癌の立体画像】膵頭部癌の診断・治療におけるMDCTの役割	里井 壯平	外科
Biotherapy(0914-2223)20巻5号 Page468-474(2006.09)	【癌ワクチン療法の新しい試み】膵癌におけるペプチド化学併用療法の開発に向けて	柳本 泰明	外科
J Pediatr Surg. 2006 Dec;41(12):1962-6.	Antenatal magnetic resonance imaging is useful in providing predictive values for surgical procedures in abdominal wall defects.	Takada K	小児外科
日本小児外科学会 雑誌(0288-609X)42 巻2号 Page222-228(2006.04)	新生児破裂肝芽腫の1例	高田 晃平	小児外科
Medical Practice(0910-1551)23巻臨増 Page121-125(2006.04)	【第一線医師・研修医・コメディカルのための新・輸液ガイド すぐ役立つ手技・手法のすべて】 実地診療に必要な栄養輸液の基礎知識と手技 末梢静脈からの可及的高カロリー輸液	高田 晃平	小児外科
J Thorac Cardiovasc Surg.131(6) Page1422-1423,2006(6)	Intercostal muscle flap without increase of pain and blood loss after lung surgery	Maniwa T	胸部心臓血管外科
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg. 2006 Aug;54(8):359-61.	Pneumothorax after pneumonectomy: surgery with successful double lobe ventilation.	Maniwa T	胸部心臓血管外科
Eur J Cardiothorac Surg. 2006 Oct;30(4):652-6	Bronchial stump reinforcement with the intercostal muscle flap without adverse effects.	Maniwa T	胸部心臓血管外科
Am J Transplant 6(3):544-551,2006	Pre-implantation multiple cytokine mRNA expression analysis of donor lung grafts predicts survival after lung transplantation in humans.	Kaneda H	胸部心臓血管外科
日本外科学会雑誌, 107(1);2.	特集によせて<<特集>虚血性心疾患治療の新展開	今村 洋二	胸部心臓血管外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Neuropathol. 2006 Jan- Feb;25(1):44-7.	Extramedullary plasmacytoma extensively affecting the sella turcica and paranasal sinuses.	Oishi T	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル(0917-950X)15巻 2号 Page105- 113(2006.02)	頭蓋縫合早期癒合症の基本的概念と治療	稲垣 隆介	脳神経外科
Spine J. 2006 Jul- Aug;6(4):464-7.	Two-level disc herniation in the cervical and thoracic spine presenting with spastic paresis in the lower extremities without clinical symptoms or signs in the upper extremities.	Sasai K	整形外科
J Neurosurg Spine. 2006 Aug;5(2):126- 32.	Microsurgical posterior foraminotomy with laminoplasty for cervical spondylotic radiculomyelopathy including cervical spondylotic amyotrophy.	Sasai K	整形外科
Geriatric Medicine(0387- 1088)44巻2号 Page207-210(2006.02)	【高齢者の転倒骨折予防】 高齢者大腿骨頸部骨折における乳幼児モデルを使用した転倒動作の再現 新たなヒッププロテクターの開発	小室 元	整形外科
Spine Journal 6 Page103-104,2006	To The Editor	Sasai K	整形外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2006;59(9):999- 1002.	Reconstruction of a natural-appearing umbilicus using an island flap: case report.	Kusumoto K	形成外科
Wound Repair Regen. 2006 May- Jun;14(3):336-42.	Effect of recombinant human fibroblast growth factor-2 on intramuscular ectopic osteoinduction by recombinant human bone morphogenetic protein-2 in rats.	Kusumoto K	形成外科
Life Sci. 2006 Oct 4;79(19):1847-55	Immunolocalization of vascular endothelial growth factor on intramuscular ectopic osteoinduction by bone morphogenetic protein-2.	Kusumoto K	形成外科
Burns. 2006 Sep;32(6):737-43.	The use of skin allograft with donor-specific tolerance in a rabbit model of full-thickness burn.	Kusumoto K	形成外科
Int J Urol. 2006 Sep;13(9):1171-4.	Retroperitoneoscopic pyeloplasty: using reconstructive methods based on intraoperative findings.	Kawa G	泌尿器科
最新医学(0370- 8241)61巻6増刊 Page1439- 1445(2006.06)	【メタボリックシンドローム】メタボリックシンドロームとテストステロンおよび男性更年期障害	河 源	泌尿器科
Urology View(1347- 9636)4巻6号 Page20-27(2006.12)	【腹腔鏡手術vsミニマム創手術 これからはじめる泌尿器科医のために】手術における技術評価法	松田 公志	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology and ESWL(0914-9635)19巻 1号 Page2-7(2006.04)	【より安全な泌尿器腹腔鏡手術をめざして 技術認定制度を踏まえて】泌尿器腹腔鏡基本手技 技術認定ビデオ審査結果から	松田 公志	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology and ESWL(0914-9635)19巻 1号 Page76-81(2006.04)	腹腔鏡下根治的腎摘除術60例の検討	日浦 義仁	泌尿器科
小児外科(0385- 6313)38巻10号 Page1231- 1234(2006.10)	【成人期に達した小児外科術後症例の諸問題】鼠径ヘルニア術後精管閉塞の診断と治療	日浦 義仁	泌尿器科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術(0037-4423)60巻13号 Page1973-1978(2006.12)	【最新 甲状腺・副甲状腺・副腎の手術】腹腔鏡下副腎摘出術	木下 秀文	泌尿器科
泌尿器外科(0914-6180)19巻8号 Page959-962(2006.08)	【前立腺がん放射線療法の進歩】 Salvage放射線療法・手術と放射線療法の比較 関西医大における前立腺全摘除術後のbiochemical failureに対するsalvage放射線療法の治療成績	木下 秀文	泌尿器科
日本内科学会雑誌(0021-5384)95巻4号 Page689-694(2006.04)	【内分泌性高血圧症 診断と治療の進歩】 内分泌性高血圧症の治療 副腎性高血圧の外科的治療の現状	木下 秀文	泌尿器科
泌尿器科紀要(0018-1994)52巻3号 Page231-234(2006.03)	関西医大における腹腔鏡下神経温存膀胱全摘除術および回腸新膀胱造設術の経験	木下 秀文	泌尿器科
眼科(0016-4488)48巻9号 Page1203-1213(2006.09)	【光線力学的療法の現状】 画像読影の基本	高橋 寛二	眼科
眼科(0016-4488)48巻4号 Page441-449(2006.04)	【手術教育】 緑内障手術	南部 裕之	眼科
あたらしい眼科 23:1303,2006	光線力学的療法(PDT)セミナー「狭義滲出型加齢黄斑変性の診断」	永井 由巳	眼科
眼科臨床医報 100:407-408,2006	関西医大香里病院のボツリヌス毒素治療経験	大山 奈美	眼科
頭頸部癌(1349-5747)32巻4号 Page423-428(2006.12)	上顎癌に対する皮切の工夫 extended lateral rhinotomy+hemicoronal flap法によるアプローチ	永田 基樹	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床(0032-6313)99巻9号 Page767-770(2006.09)	多発性線維性骨異形成症例	宮本 真	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床(0447-7227)52巻3号 Page172-177(2006.05)	口内炎を主訴としたSweet病の1例	金 義慶	耳鼻咽喉科
Otology Japan(0917-2025)16巻2号 Page81-86(2006.05)	接着法を用いた鼓膜形成術の成績と工夫	金子 明弘	耳鼻咽喉科
Otology Japan(0917-2025)16巻1号 Page2-4(2006.02)	当科における癒着性中耳炎の治療 耳管粘膜誘導法について	古川 昌幸	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科展望(0386-9687)49巻5号 Page324-327(2006.10)	Semi-rigid endoscopic sinus surgeryの経験	朝子 幹也	耳鼻咽喉科
頭頸部癌(1349-5747)32巻1号 Page68-71(2006.04)	HER-2蛋白を発現したSalivary Duct Carcinomaにおけるトラスツズマブ使用の検討	南野 雅之	耳鼻咽喉科
Ann Nucl Med. 2006 Jan;20(1):83-7.	Acupuncture-induced cerebral blood flow responses in dystonia.	Kawa SK	放射線科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Radiat Med. 2006 Jun;24(5):369-72.	Spontaneous rupture of a necrotic hepatic angiosarcoma: findings on dual-phase computed tomography and angiography.	Ikeda K	放射線科
Acta Radiol. 2006 Dec;47(10):1017-21	Percutaneous transluminal cutting-balloon angioplasty for hemodialysis access stenoses resistant to conventional balloon angioplasty.	Kariya S	放射線科
Radiat Med. 2006 Feb;24(2):139-42.	A case of spontaneous regression of hepatocellular carcinoma with multiple lung metastases.	Kojima H	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol. 2006 Jul- Aug;29(4):580-5.	Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fracture: multivariate study of predictors of new vertebral body fracture.	Komemushi A	放射線科
Radiat Med. 2006 Nov;24(9):643-5	Leiomyoma of the trachea: CT and MRI findings.	Maehara M	放射線科
Acta Radiol. 2006 Oct;47(8):817-22.	Gadolinium-enhanced magnetic resonance imaging after percutaneous vertebroplasty does not improve the short-term prediction of new compression fractures.	Maehara M	放射線科
Radiology. 2006 Apr;239(1):195-200.	Percutaneous vertebroplasty: relationship between vertebral body bone marrow edema pattern on MR images and initial clinical response.	Tanigawa N	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol. 2006 Jan- Feb;29(1):92-6.	Radiological follow-up of new compression fractures following percutaneous vertebroplasty.	Tanigawa N	放射線科
薬理と治療(0386- 3603)34巻Suppl.2 PageS-183-S- 187(2006.12)	【肝病態生理研究のあゆみ】 99m Tc-GSAアジアロシンチによるグラフト肝機能評価	河 相吉	放射線科
臨床放射線(0009- 9252)51巻11号 Page1414- 1418(2006.10)	【Interventional Radiologyのコツ】 胸部 気管・気管支ステント	庄村 裕三	放射線科
IVR: Interventional Radiology(1340- 4520)21巻3号 Page260-265(2006.07)	【低侵襲治療としてのRFA】 骨腫瘍	谷川 昇	放射線科
IVR: Interventional Radiology(1340- 4520)21巻2号 Page192-196(2006.04)	手技 CT+透視	米虫 敦	放射線科
IVR: Interventional Radiology(1340- 4520)21巻3号 Page285-289(2006.07)	骨粗鬆症性圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術の医療経済学的検討	米虫 敦	放射線科
産婦人科の進歩 (0370-8446)58巻1号 Page78-80(2006.02)	IVF-ET(経筋層胚移植)にて妊娠成立したが、その周産期管理が困難であった2症例	依岡 寛和	産婦人科
日本臨床(0047- 1852)別冊内分泌症 候群2 Page422- 425(2006.06)	【内分泌症候群(第2版) その他の内分泌疾患を含めて】 女性性機能 不妊・不育 習慣流産	岡田 英孝	産婦人科
産婦人科の実際 (0558-4728)55巻6号 Page891- 895(2006.06)	【排卵誘発アップデート】 不妊治療におけるcontrolled ovarian hyperstimulationの実際	岡田 英孝	産婦人科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産科と婦人科(0386-9792)73巻6号 Page765-771(2006.06)	【配偶子形成から受精まで】着床のメカニズム 着床における胚と子宮との相互作用のメカニズム,とくに,子宮内膜側の発現物質の変化を中心に	岡田 英孝	産婦人科
Anesth Analg. 2006 Dec;103(6):1459-63	The differential effects of nitrous oxide and xenon on extracellular dopamine levels in the rat nucleus accumbens: a microdialysis study.	Sakamoto S	麻酔科
Acta Anaesthesiol Scand. 2006 Aug;50(7):875-81.	Propofol acts at the sigma-1 receptor and inhibits pentazocine-induced c-Fos expression in the mouse posterior cingulate and retrosplenial cortices.	Yamada M	麻酔科
日本医事新報 (0385-9215)4269号 Page12-22(2006.02)	【臨床医学の展望2006 診断および治療上の進歩】麻酔科学	新宮 興	麻酔科
臨床麻酔(0387-3668)30巻10号 Page1591-1594(2006.10)	初期臨床研修を考える 麻酔科の取り組みと課題	新宮 興	麻酔科
麻酔(0021-4892)55巻9号 Page1140-1148(2006.09)	Org 9426(臭化ロクロニウム)の筋弛緩作用 臭化ベクロニウムとの比較	新宮 興	麻酔科
外科治療(0433-2644)94巻増刊 Page573-577(2006.04)	【外科救急処置アトラス】脊椎・四肢の術技 硬膜外穿刺	西 憲一郎	麻酔科
整形外科看護 (1342-4718)2006秋季増刊 Page42-47(2006.11)	【あなたの?にズバツと答える!整形外科の看護Q&A】周術期看護のハテナ 術前看護のハテナ 麻酔	村尾 浩平	麻酔科
整形外科看護 (1342-4718)2006秋季増刊 Page59-62(2006.11)	【あなたの?にズバツと答える!整形外科の看護Q&A】周術期看護のハテナ 術後看護のハテナ 麻酔	村尾 浩平	麻酔科
整形外科看護 (1342-4718)2006秋季増刊 Page66-67(2006.11)	【あなたの?にズバツと答える!整形外科の看護Q&A】周術期看護のハテナ 術後看護のハテナ 疼痛対策	村尾 浩平	麻酔科
麻酔(0021-4892)55巻4号 Page451-453(2006.04)	頸椎前方固定術における経鼻挿管チューブ抜管前のラリンジアルマスク挿入	梅垣 岳志	麻酔科
麻酔(0021-4892)55巻5号 Page611-613(2006.05)	片肺患者の気胸に対し気管支ブロッカーを用い右上葉分離肺換気を行った1症例	木本 倫代	麻酔科
麻酔(0021-4892)55巻4号 Page475-477(2006.04)	Balloon Wedge Pressure Catheterを用いて一側肺換気を行った低体重児の1症例	里井 明子	麻酔科
日本臨床救急医学会雑誌9巻1号 Page33-37,2006	急速に出現・拡大した感染性嚢状腹部大動脈瘤の1例	三木 重樹	救急医学科
日本血管外科学会雑誌15巻1号 Page39-42,2006	直腸との瘻孔形成が疑われた孤立性感染性内腸骨動脈瘤の1手術治験例	藤井 弘史	救急医学科
Chirurgia19巻2号 Page161-163,2006	Thoracic Aortoic Emergencies in Octogenarians	H.Fujii	救急医学科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
静脈経腸栄養21巻2号 Page3-9,2006	救急医療とNST	北澤 康秀	救急医学科
Chirurgia19巻5号 Page333-336,2006	A study of axillary artery cannulation in Stanford type A acute aortic dissection compared with femoral artery cannulation	H.Fujii	救急医学科
Chirurgia19巻5号 Page337-340,2006	Administration of sivelestat after acute aortic dissection surgery	H.Fujii	救急医学科
日本臨床救急医学 会雑誌別冊 9巻6号 Page438-443,2006	救命センターに搬送された下肢閉塞性同若硬化症急性増悪例の治療成績 -下肢動脈塞栓症との比較-	藤井 弘史	救急医学科
Chirurgia61巻6号 Page509-514,2006	Return to home early days after acute aortic dissection surgery	H.Fujii	救急医学科
Atherosclerosis. 2006 Oct;188(2):377-83.	Increased soluble FcγRIIIa(Mφi) in plasma from patients with coronary artery diseases.	Takahashi H	臨床検査医学科
J Infect Chemother. 2006 Jun;12(3):132-8.	Epidemiological study of Candida infections in blood: susceptibilities of Candida spp. to antifungal agents, and clinical features associated with the candidemia.	Nakamura T	臨床検査医学科
JIM: Journal of Integrated Medicine(0917-138X)16 巻10号 Page818- 821(2006.10).	【臨床検査の達人になる!】臨床検査の読み方・すすめ方 炎症反応マーカー、CRPの活用の仕方	高橋 伯夫	臨床検査医学科
日本臨床(0047- 1852)64巻増刊5 Page94- 100(2006.07)	【高血圧 最新の研究動向】基礎編 血圧調節因子 交感神経系	高橋 伯夫	臨床検査医学科
ホルモンと臨床 (0045-7167)54巻5号 Page417- 423(2006.05)	【体液調節とホルモン】体液調節の基礎 Na利尿ホルモン 内因性ジギタリス	高橋 伯夫	臨床検査医学科
日本臨床(0047- 1852)64巻増刊5 Page177- 181(2006.07)	【高血圧 最新の研究動向】基礎編 血圧調節因子 循環生理活性物質 ジギタリス様物質	高橋 伯夫	臨床検査医学科
日本検査血液学会 雑誌(1347-2836)7巻 2号 Page278- 286(2006.07)	2社の血漿FDP測定試薬の比較検討と問題点 人為的採血不良検体と凝固・線溶亢進症例および異常フィブリノゲン症例	吉賀 正亨	臨床検査医学科
クリニカルプラクティス 第25巻第4号 Page297-299,2006	動脈硬化とCRP	高橋 伯夫	臨床検査医学科
血圧 13巻6号 Page639-646,2006	中枢性交感神経抑制薬治療と糖尿病～メタボリックシンドロームを中心に～	高橋 伯夫	臨床検査医学科
Nephrol Dial Transplant 21 Page1640- 1647,2006	Association of the circulating adiponectin concentration with coronary in-stent restenosis in haemodialysis patient.	Hakuo Takahashi	臨床検査医学科
ホルモンと臨床 54巻5号 Page417- 423,2006	Na利尿ホルモン(内因性ジギタリス)	高橋 伯夫	臨床検査医学科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原簿論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 今村 洋二
管理担当者氏名	薬剤部長 廣田 育彦、看護部長 安田 照美、 事務部長 竹林 俊雄

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約		管理課、各診療科、 薬剤部、手術部、 各病棟、臨床検査部、 放射線部、病歴情報課、 地域医療連携部、	保管部署で管理
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	/
	高度の医療の提供の実績	各診療科	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	各診療科	
	高度の医療の研修の実績	卒後臨床 研修センター	
	閲覧実績	病歴情報課	
	紹介患者に対する医療提供の実 績	地域医療連携部	
	入院患者数、外来患者及び 調剤 の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
確規 保則 の第 9 況条 の 2 3 及 び 第 1 1 条 各 号 に 掲 げ る 体 制	専任の医療に係る安全管 理を行う者の配置状況	有 (1名)	/
	専任の院内感染対策を行 う者の配置状況	有 (1名)	
	医療に係る安全管理を行 う部門の設置状況	有	
	当該病院内に患者からの 安全管理に係る相談に適切 に応じる体制の確保状況	有 (専任2名)	
	医療に係る安全管理のた めの指針の整備状況	有	
	医療に係る安全管理のた めの委員会の開催状況 (平成18年度)	12回	
	医療に係る安全管理のた めの職員研修の実施状況 (平成18年度)	8回	
	医療機関内における事故 報告等の医療に係る安全の 確保を目的とした改善のた めの方策の状況	有	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医療情報部部長 今村 洋二 (病院長)
閲覧担当者氏名	医事課長 山本 和彦、 医療情報部病歴情報課員 北村 臣
閲覧の求めに応じる場所	1階 情報ライブラリー室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績 (平成18年1月～3月)

前年度の総閲覧件数	延 1 件	
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	55.19 %	算定期間	平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,837 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,607 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,927 人
	D: 初診の患者の数		42,799 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	① (1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	① (1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	① ・ 無
<ul style="list-style-type: none">所属職員： 専任（ 2 ）名 兼任（ 11 ）名活動の主な内容： 組織横断的に当該院内の安全管理を担う部門であり、院内の診療体制、臨床研修医等の管理体制、薬剤管理、看護管理の徹底化さらに、医療機器などの保守点検及び適正使用、院内技術研修体制の充実、医療事故再発防止の確立を行う事で患者に安全な医療を提供する。 医療に関わる安全の為の指針の策定及び変更、組織機能の安全に関する検討を行う。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	① ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	① ・ 無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 「医療安全管理マニュアル」、 「患者相談窓口運用規程」 参照	

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況（平成18年年度）

年 12 回

・ 活動の主な内容：

(1) 医療安全管理対策委員会：原則毎月1回定例開催

医療事故を未然に防止すると共に、迅速かつ適切な対策を講ずるため、インシデントレポートの分析検討、マニュアルの整備、マンスリーレポートの発行、セーフティーマネージャー会との連携などを通じて安全管理の徹底化を促進する。

(2) 医療事故対応委員会：必要の都度開催

インシデントレベル3bで病院長、医療安全管理部長と専任医療安全管理者が合議し、医療過誤が原因である、またはその可能性が否定できない事例とレベル4a以上の案件は、病院長が委員会の開催を指示し、事故対策方針、事故原因の分析、患者・遺族との交渉、関係職員の制裁などについて審議対応する。

(3) セーフティーマネージャー会：原則毎月1回定例開催

医療機関の安全体制の確保及び推進の為に各委員会の管理及び運営に関する規定を定め、安全管理の為に事象の発生原因を分析し、改善策の立案及び実施、職員への周知を図る。更に実施された改善策の実施状況の調査、見直しを行う。

(4) 感染対策委員会：原則毎月1回定例開催

病院内におけるMRSA、その他の院内感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期するために院内感染及びその予防のための調査、研究、院内感染症発生時の対策などの方策と実践を行う。当委員会のマニュアルに次の指針が示されている。MRSA感染防止対策指針、手洗い(手指消毒)指針、消毒剤使用指針、B型肝炎感染予防対策指針、C型肝炎感染予防対策指針、針刺し後のHIV感染防止対策指針、結核感染予防対策指針など

(5) 看護部感染防止リンクナース会：原則2ヵ月に1回開催

感染対策委員会の下部組織として発足し、ICTの指導を受けながら、感染防止にかかわる調査、研究、教育活動を行い、有効かつ低コストの感染防止対策を実践し、院内感染の減少を図る。

(6) 輸血療法委員会：原則毎月1回定例開催

院内における輸血に関し、輸血療法を安全かつ適切に行い、輸血に伴う事故や副作用、感染及び合併症の対策について審議する。

(7) 医療ガス安全管理委員会：原則年1回定例開催

医療ガス設備の安全管理を図り、患者さまの安全を確保するために保守点検指針に基づいて、実施責任者に医療ガスの保守点検業務を行わせ安全の確認を行い、各部門に医療ガスに関する知識を普及し啓発に努める。

(8) 安全衛生委員会：原則毎月1回定例開催

職員の危険防止及び健康障害を防止するための基本的な対策を立て、労働災害の原因や再発防止に努め、職員の健康増進を図るための基本的な対策を立てる。

(9) 看護部安全対策委員会：原則毎月1回定例開催

看護部内において委員会を組織し、看護部内における安全及び危機管理に関することなどを検討し、病棟・外来の安全巡回、安全対策学習、医療事故の集計や分析を行う。

(10) 放射線安全管理小委員会：原則年4回開催

業務従事者の教育訓練、施設の改廃、新設、維持管理、放射線の測定、記録の分担、大学の予防委員会等の調査の立会い、科学技術庁又はその指定検査機関による施設検査、定期検査などに際しての対応を行う。

(11) NST委員会：原則毎月1回定例開催

栄養障害の早期発見と治療により、現疾患の重症化を抑制することで、患者満足度や医療の質の向上を図る。

(12) 褥瘡対策委員会：原則毎月1回定例開催

褥瘡の発生予防及び発症後早期からの適切な処置と対策を講じるため、入院患者に褥瘡に関する評価を行い、必要な対策を実施する。

(13) クリニカルパス委員会：必要の都度開催

クリニカルパスの作成と改訂を通じて医療の効率と質の向上を図り、患者の満足と資源の効率的活用を目指す。

(14) 看護部安全対策リンクナース会：原則毎月1回定例開催

看護部安全対策委員会の下部組織として、各部所のインシデント分析や病棟・外来の安全巡回、安全対策に関する学習を行い、安全に関する知識の普及、医療事故防止を図る。

(15) 看護部セーフティマネージャー会：原則毎月1回定例開催

セーフティマネージャー会の分科会として、各部所のインシデント分析や安全巡回などを行い、医療事故防止についての教育や安全管理対策の推進を図る。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況（平成18年年度）

年 8 回

研修の主な内容：

別 紙 参 照

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ・ 無 ） 電子化 [第一、二報方式]
 1. 電子化入力運用を行っており、第一報は全職員、第二通知は、セーフティーマネージャーがそれぞれ入力を行っている。
 2. 事故報告等の目的は、「個人を罰する事ではなく事故の再発防止に活用することである」と定めている。
 3. 報告すべき事項は、療養指導から院内給食に関するものまで29項目である。
 4. 報告先は、セーフティーマネージャー、所属部門の部長を経て、医療安全管理部、病院長である。緊急を要する場合は、直接病院長へ報告し指示を受けて対処する。
 5. 医療安全管理部は、報告を受けて速やかに内容を把握し、当該のセーフティーマネージャーと分析し、対策を講じる。

・その他の改善のための方策の主な内容：

<安全教育>

1. セーフティーマネージャー会での事例検討、報告
2. 職員研修のDVD上映会開催
3. 技術教育
(人工呼吸器の取り扱い、輸液ポンプ、微注ポンプの取り扱い等)

<情報システムの活用>

1. 医療安全管理対策委員会より、「医療安全委員会マンスリー報告」発行（月1回）
2. 医療安全管理部より、「医療安全情報」の発行（事例により発行）
3. 医療安全管理部より、「医療安全ほっとメール」の発行（事例により発行）
4. 電子カルテ上にホームページの開設

<安全巡廻による評価>

1. 改善策に係わる実施状況の評価

<改善の為の取り組み>

1. 新入職者研修、新入医局員ワークショップを開催し、技術、教育、事例検討、輸血、感染、接遇、診療録、等安全に関するワークショップを施行。
2. セーフティーマネージャーによるWG（業務 巡回 研修 インフォームドコンセント）
3. 看護師に対する事例分析の講習会を開催した。
4. 「診療運用の手引き」をすべての医師と各部所に配付した。
5. 各種マニュアル（手術部位マーキング、術後遺残防止、暴力発生時の対応、不当要求等の対応）を作成した。
6. セーフティーマネージャーによるRCA分析
7. 各種手順書（硬膜外チューブ抜去、造影剤やR I 静注、血管造影時の圧迫帯除去）を作成した。

以 上

⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

(平成18年4月～平成19年3月)

研修の主な内容

- クリニカルパス大会（平成18年6月3日） 参加者 81名
本院におけるクリニカルパスについて、クリニカルパスの導入と問題についての演題発表を行った。

- 感染症講演会（平成18年7月3日） 参加者 192名
亀田総合病院の岩田健太郎先生から「抗生剤の考え方・使い方」に関して講演いただいた。

- 医療安全講演会（平成18年7月25日） 参加者 119名
本院顧問弁護士の小寺一矢先生より「病院におけるトラブル～予防と対策～」と題して、医療事故の概説や医療紛争増加の要因に関して講演いただいた。

- 感染症講演会（平成18年10月24日） 参加者 66名
神戸大学の栄田敏之先生、本学臨床検査部の中村竜也先生により「抗MRSA薬の適正使用に関するシンポジウム」に関して講演いただいた。

- 感染症講演会（平成18年12月5日） 参加者 119名
近畿中央胸部疾患センターの鈴木克洋先生より「結核」に関して講演いただいた。

- 医療安全大会（平成18年11月6日） 参加者 293名
手術時の異物遺残対策、転倒・転落防止への取り組み、医療機器管理への取り組みなど各附属病院より、計5題の演題発表を行った。

- 医療安全講演会（平成19年2月1日） 参加者 144名
大阪地方裁判所の角隆博民事部統括裁判官（他5名）により、医療訴訟に関する説明とビデオ上映、並びに事前アンケートへの回答に関して講演いただいた。

- クリニカルパス大会（平成19年3月15日） 参加者 104名
バリエーション入力結果と入力方法について、内視鏡的胃粘膜切除パス並びに白内障パスについての演題発表を行った。